

耳の痛いことを言う人こそ大切に

県北教育事務所長 藤田 博隆

もうすぐ夏季休業が終わり、授業や様々な活動が最も充実する時期を迎えます。児童生徒との久々の対面を前に、学校では、様々な準備を進めていることと存じます。

夏季休業中、様々な研修会で申し上げているように、今年度に入り、県北管内において、児童生徒の命に係わる大きな事故、教職員の不祥事が発生しておりません。各学校でのご指導、そしてコンプライアンス研修等の成果の賜物です。あらためて深く感謝申し上げます。

しかしながら、先日、淑徳大学教授の坂田仰先生による、法に基づいたリスクマネジメントやいじめへの適切な対応についての講演を聞く機会があり、その中の「正常性バイアス」という言葉にはっとしました。人には、「自分たちに限って問題はない」、「これまでは大丈夫だったから次も大丈夫」と、不都合な兆候から無意識に目を背け、現状を楽観視してしまう心理的な盲点があり、それこそが、重大な危機を見落とす引き金になります。今年度、管内で大きな事故がないと常々話している自分にとって、大きな戒めとなる言葉でした。

そこで思い出したのが、「耳の痛いことを言う人を大切にしろ」という、ある先輩の言葉です。誰でも「それは違う」と言われたり、自分と違う考えを示されたりすることには抵抗があります。また、人間関係が悪くなることを恐れて、否定的な言葉や意見を伝えることを控えてしまいます。特に、管理職等に「それは違うのでは」、「もう少し良い方法があるのでは」という意見が入ってこない、学校にとって致命的なミスにつながりかねません。

だからこそ、学校の課題を指摘し、耳の痛い意見や異なる視点をぶつけてくれる存在は、「正常性バイアス」に陥らない、むしろ大切な存在だと考えられます。

厳しい指摘を受けても、正しい方向を指し示してくれるフィードバックとして真摯に受け止める。教職員皆が、そういった謙虚さと前向きな考え方をもち、耳が痛いことや様々な考えを言い合えるような、安全で風通しの良い学校組織づくりの継続をお願いいたします。

県北教育事務所といたしましても、引き続き先生方が教育の専門家としての矜持を実感し、日々の教育活動に邁進していけるよう、力を尽くしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

自己肯定感を高める言葉とは？

間もなく長い夏休みも終わり、9月を迎えます。県北管内では長期休業明け以降に不登校児童生徒が増える傾向にあります。児童生徒が不登校傾向に陥らない一つの方策として、「自己肯定感を高める」ことが大切だと言われています。そこで、「自己肯定感を高めるポジティブな言葉かけ10」を紹介します。

① 「～しようね」

「～してはダメでしょ」という言葉かけは自分が否定されたことだけが子供に伝わってしまいます。「騒がないでね」を「静かに聞こうね」と言い換えることで、何をしたらいいのかがはっきりと伝わります。

② 「あなたの〇〇を見てるよ」

努力やプロセスを見ていたことを伝えます。子供は自分が努力していることを認めてもらったり、プロセスを見てもらえていたりすると、さらにポジティブになると思います。

③ 「あなたの〇〇はすばらしいね」

これは見えないものを褒める時に使います。見た目を褒められるより、目に見えないものを褒められたら、自分のことをもっと伸ばそうと思うはずです。

④ 「あなたの意見はとても素敵だよ」

このような言葉かけをすることは、子供の表現を促すことにつながります。子供の意見に対して、積極的にほめてあげたいものです。

⑤ 「大丈夫だよ」「次はうまくやれるよ」

これは、子供が失敗したとき、「失敗しても大丈夫だよ、次があるからね」という、再チャレンジを促す言葉かけとなります。気を付けたいのはなんの努力もしていない段階で「大丈夫」と言うことです。子供にとって不安や心配の種になるので、注意したいものです。

⑥ 「～してくれてありがとう」

文字通り、子供がしてくれたことに関して、素直に感謝の気持ちを伝えることです。感謝の気持ちを伝えることで、自己肯定感が高まるのはもちろん、子供自身が誰かに「ありがとう」と言える大人に育つはずですよ。

⑦ 「〇〇をしたことが大切なんだよ」

努力やプロセスなど、子供がやったことそのものに対して、大切なことだと伝えます。たとえテストの結果がよくななくても、一生懸命やったことにフォーカスすることで、どんな結果でも肯定的にとらえることができます。

⑧ 「いつも自分を信じ大切にしていんだよ」

この言葉をかけることで、自分自身を大切にすることや、自分を信じて生きていこうとする力が身に付きます。他の人にやさしくすることも大切ですが、まずは自分を大切にしてほしいと思います。

⑨ 「あなたの個性はとてもすばらしいよ」

子供の個性や特性に対する肯定的な言葉かけです。例えば、行動がゆっくりな子に対して、「あなたはいつも自分のペースでじっくりと取り組めるね」といった「リフレーミング」と呼ばれる、短所を長所に変える言葉かけをすることで、自己肯定感を下げることなく、個性を発揮していけるようになっていきます。

⑩ 「いっしょに楽しもうね」

一緒に何かをすることで、「ここにいていいんだ」、「ここには自分の居場所があるんだ」と無条件に感じることができ、自分に自信があふれてくる言葉です。

学校だけでなく、家庭でもこのような言葉を子供にかけることで、子供の自己肯定感は高まるはずです。自己肯定感を土台にすることで、非認知能力が高まり、自分らしく生きる力が身に付いていくと思われます。何かの機会に保護者の方々にも伝えていただきたいと思います。

また、先生方だけでなく、子供同士でも同様の言葉かけができるようになることで、学校が一人一人にとって、安心できる居場所になるはずです。9月から新たにスタートする学校生活で、このような言葉かけが飛び交う学校、そして、一人一人が生き生きと活動できる学校づくりのために、ご活用ください。